

1 はじめに

本校では、学校教育目標「自ら考え、判断し、正しいことを進んで行う心身ともに健やかな子どもの育成」のため、重点目標を「一人一人が互いに認め合い、主体的に活動する児童の育成」とした。本研究会の実践テーマである「望ましい集団活動」が「一人一人が互いに認め合える」集団と捉え、児童が互いに認め合い、好ましい人間関係を構築するための教育活動の充実を図った。また、そのような集団の中で、自ら考え、自己選択や自己決定できるように教育活動を工夫することで、本研究会の研究主題に迫ろうと考えた。

2 資料（実践事例）

（1） あいさつ運動

運営委員を中心に、毎朝あいさつ運動を行った。児童全員が元気なあいさつができるように、給食の時間にあいさつを返した人数や特に元気な声であいさつをした児童の名前を発表したり、あいさつの大切さを呼びかけるポスターを掲示したりした。

（2） 縦割り班活動

年に4回、昼休みを使って縦割り班活動を行っている。1つの班には、どの学級からも2人以上は入るようにし、室内ゲーム、鬼ごっこなどの様々な活動を通して、異学年交流を図っている。



（3） 委員会紹介集会

各委員会がそれぞれの活動について紹介をする。特に4年生は、来年度から委員会に所属するため、熱い眼差しを向けて真剣に聞いている。昨年度は、学校の行事とからめ、発表する時期や内容を工夫して取り組んだ。



（4） いじめ0集会

運営委員が中心となって、いじめとは何なのか考えられるようなクイズや劇を発表したり、各学級がいじめをなくすために考えたスローガンを発表したりした。スローガンを掲示するなどし、いじめ0を目指して毎年実施し、全校児童が一体感をもつ場となっている。今年度は、録画した劇を各学級で視聴した。

3 成果と課題

コロナ禍で活動が制限された1年であったが、やり方や時期を変え、できる範囲で活動することができた。児童が考えたことを大切に、それに対して教師がアドバイスするような形で関わったことで、主体的に活動し、活動を改善することができたり、継続して取り組んだりする態度が育まれた。

学校行事や集会活動では、高学年の児童が中心になり活動することが多く、低学年の児童が力を発揮する場があまり作れなかった。今後は、一人一人の意見を取り入れた行事を行うことで全員が活動に参加しているという意識をもたせていきたい。